

「実習」を重視したソーシャルワーク教育の展開

社会福祉士には、クライアントが抱える生活問題やそのニーズに対応するために、地域や施設等において、さまざまな職種・関係者等とのチームアプローチやそのコーディネートの中心となっていくことが実践力の1つとして求められています。

2015年に「誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現—新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン—」(新福祉ビジョン)が厚生労働省から出され、その後も「一億総活躍社会」、「我が事・丸ごと地域共生社会」により、分野を問わない全世代・全対象型の「新しい地域包括支援体制の確立」が示されました。また、ソーシャルワーク教育団体連絡協議会「新福祉ビジョン特別委員会」による「ソーシャルワーカー養成教育の改革・改善の課題と論点(最終報告)」では、社会福祉士の実践力を向上するために、養成教育における実習時間は現行の180時間から相当増やす(例:90時間増)とされています。しかしながら、諸外国から見ると、日本の実習教育時間は、まだまだ少ないのが現状です(イギリス:学部200日・修士200日、アメリカ:学部400時間・修士900時間など)。

北海道ブロックでは、より高度な実践力養成を志向し、180時間実習の枠の中で実習評価表による到達目標の明確化やOSCE・CBT等の実習前評価システム施行に取り組み、実習現場では、臨床参加型実習が展開されております。しかし、2013年に北海道ブロックが行った調査では、評価を行うための実習経験が一部実施できていないことが明らかとなっています。さらに、現場が要求する実践力と現行の実習教育を含めた養成教育での到達点に開きが生じているのではないかとの声がきかれるとともに、180時間実習で到達可能な到達目標・水準の限界についての指摘も散見されています。そのような中で、2015年度からはソーシャルワーク専門職として求められる人材養成を念頭に、卒業時到達水準・目標に関する検討を行っています。

以上を踏まえ、本研修では、ソーシャルワーク教育における諸外国と我が国の動向を理解するとともに、現行の相談援助実習への積み上げ形式で実施している実習(計360時間実習)による到達点に関する報告を、実践現場・養成校・学生の実習関係三者からいただき、実習時間と到達目標のあり方、実習を重視したソーシャルワーク教育の可能性と人材養成のあり方について議論することを目的とします。

日 時：2017年2月18日(土) 13:00~17:30(受付12:30~)

会 場：北星学園大学 C館501教室
札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号 地下鉄大谷地駅徒歩5分

対 象：養成校教員、社会福祉士、学生、その他社会福祉士養成教育に関心のある者
定 員：50名

参 加 費：2,000円(当日申し受けます) ※学生無料

主 催：北海道ブロック社会福祉実習研究協議会
(一社)日本社会福祉士養成校協会北海道ブロック
(一社)日本社会福祉教育学校連盟北海道ブロック

教育交流会：会場周辺で開催(会費4,000円程度を予定) *事前申し込み必要、当日キャンセル不可

研修プログラム

司 会：近 藤 尚 也（北海道医療大学）

12：30 受付開始

13：00 開会挨拶・・・・・・・・道ブロック運営委員長 池 田 雅 子（北星学園大学）

13：10 講 演

「実習を重視したソーシャルワーク教育の展開に向けてー諸外国とわが国の動向からー」
添 田 正 揮（厚生労働省 社会福祉専門官）

14：30 質 疑

14：45 休 憩

15：00 シンポジウム

「360 時間実習の到達点とソーシャルワーク実習教育のさらなる可能性」
コーディネーター 越 石 全（札幌医学技術福祉歯科専門学校）
コメンテーター 添 田 正 揮（厚生労働省社会福祉専門官）

①実習生の立場から

柳 谷 朱 音（北星学園大学 4 年）
久 保 田 花 音（北海道医療大学 4 年）

②実習施設・機関の立場から

上 田 学（新さっぽろ脳神経外科病院）
久 慈 隆 之（介護老人保健施設あつべつ）

③養成校の立場から

池 田 雅 子（北星学園大学）
巻 康 弘（北海道医療大学）

16：30 休憩

16：45 質疑応答・意見交換

17：30 閉会挨拶・・・・・・・・道ブロック研修委員長 巻 康 弘（北海道医療大学）

18：15 情報交流会

【講師紹介】

海外での福祉施設スタッフや社協ソーシャルワーカーを経験し、日本社会事業大学にて実習教育を担当後、川崎医療福祉大学を経て、2016 年 4 月より厚生労働省社会・援護局で社会福祉専門官を務められております。

講演では、我が国で今後必要となる人材を養成していくための実習を含む教育について、諸外国の動向を中心に国内も合わせお話いただきます。加えて、実習教育の中でどのような体験や指導等が求められるのか、さらに、実習時間の増加を考える際の学習内容への期待や到達目標のあり方への示唆をいただきます。

2016年度 社会福祉士養成教育研修会申込用紙

※本申込用紙をFAX又はメール添付の上、下記までお申し込みください。(表紙不要)

【お申し込み先(とりまとめ担当)】

FAX 011-387-3692

Mail ymmtmym@hokusho-u.ac.jp

(北翔大学生涯スポーツ学部健康福祉学科 山本麻由美(共同研究室)宛)

申込期限 2017年2月10日(水)

所属機関・団体名			
代表連絡先 (メール・電話)			
参加者氏名	職 位	教育交流会 (○をつけて下さい)	備 考
		参加 ・ 不参加	
		参加 ・ 不参加	
		参加 ・ 不参加	
		参加 ・ 不参加	
		参加 ・ 不参加	

※情報交流会の当日キャンセルはできません。

<連絡事項等> 本研修会に参加するにあたって何かございましたらご記入ください。

--

<お問い合わせ先>

北海道医療大学 看護福祉学部 近藤 尚也

TEL : 0133-23-3182 E-mail : n-kondo@hoku-iryo-u.ac.jp